

## 教職 e ポートフォリオを活用した自己総合評価に見る 学生の成長過程分析の試み

The Growth of Student Teachers' Self Assessment Using Professional ePortfolio

谷塚 光典\*,\*\* 東原 義訓\* 喜多 敏博\*\* 戸田 真志\*\* 鈴木 克明\*\*

Mitsunori YATSUKA\*,\*\* Yoshinori HIGASHIBARA\*

Toshihiro KITA\*\* Masashi TODA\*\* Katsuaki SUZUKI\*\*

信州大学学術研究院教育学系\* 熊本大学大学院教授システム学専攻\*\*

Institute of Education, Shinshu University\*

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University\*\*

＜あらまし＞ 信州大学教育学部では、2010 年度入学生から新設・必修化された「教職実践演習」に対応するために、自己評価と相互評価の機能を実装した教職 e ポートフォリオを開発して運用している。本研究では、教職 e ポートフォリオに蓄積されたデータのうち、学生による自己総合評価に着目して、学年による記述の変化の様相を明らかにした。分析の結果、「自分」「子ども」「教師」という語句、各学年で履修する臨床経験科目の授業科目名、「授業」に関する記述等が多いことがわかった。

＜キーワード＞ e ポートフォリオ 履修カルテ 教員養成 教育実習 教師教育

### 1. はじめに

信州大学教育学部では、2010 年度入学生から新設・必修化された「教職実践演習」に対応するために、自己評価と相互評価の機能を実装した教職 e ポートフォリオを開発した（谷塚 2013, 谷塚ほか 2015）。そして、観点別自己評価や学生間の相互コメントに着目して、特定のキーワードがどれくらい含まれているかを学年別に分析することによって、学生の成長過程の様相を明らかにしてきた（谷塚ほか 2016a ; 2016b）。

そこで本研究では、教職 e ポートフォリオに蓄積されたデータのうち、学生による自己総合評価に着目して、学年による記述の変化の様相を明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究の対象と方法

研究対象や方法は谷塚ほか（2016b）と同様である。対象は、2012 年度に信州大学教育学部に入学し、2015 年度に「教職実践演習」を受講した 4 年次生 251 名のうち、学校教育教員養成課程の教科に関する 10 コースの計 180 名である。

分析には、テキストマイニングソフトとして、「TRUSTIA」((株) ジャストシステム) を用いた。自由記述を CSV 形式でデータ化し、データベースを作成した。本研究では、主題分類を学年別に行い、自己総合評価の記述内容が学年の変化に伴ってどのように変化するかを明らかにする。

### 3. 自己総合評価の分析

表 1 から表 4 は、各学年末段階での自己総合評価における名詞句の頻出語句のトップ 20 である。これは、TRUSTIA で分析した結果を「統計情報」に基づいた数値である。なお、第 20 位が複数ある場合は、すべて掲載している。

第 1 の特徴として、各学年を通して、「自分」「子ども」「教師」が上位にあることである。このことは、自分の成長を振り返る際に、子どもとの関わりから記述していることが読み取れる。

第 2 の特徴として、各学年段階で履修する授業科目に関する名詞句が多用されている。2 年次の「教育臨床演習」、3 年次の「教育実習 I」、4 年次の「教育実習 II」である。このことは、各学年で必修科目となっている臨床経験科目に関連づけて記述していることを示している。

そして、第 3 の特徴として、「授業」という語句が上位に上がる一方で、「知識」が下がっていることがある。教育実習を経て、「授業」の大切さを実感してきていることが読み取れる。

### 4. おわりに

本研究では、教職 e ポートフォリオに蓄積された自己総合評価に着目して、学年による記述の変化の様相を明らかにした。

今後の課題としては、これまでに、自己総合評価、観点別自己評価の一部、そして相互コメント

について、学年による記述の変化の様相を明らかにしてきたので、これらを総合的に考察することで、教職志望学生の成長過程を明らかにしていく必要がある。

## 付記

本研究の一部は、JSPS 科学研究費 基盤研究(C) 課題番号 25350325「教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職 e ポートフォリオの活用」(研究代表者: 谷塚光典), 及び基盤研究(C) 課題番号 16K01107「協働的問題解決のための省察を促進する教職 e ポートフォリオシステムの開発」(研究代表者: 谷塚光典) の助成を受けたものである。

## 参考文献

谷塚光典 (2013) 信州大学における e ポートフォリオ

**表3 1年末の自己総合評価での頻出語句 (名詞句)**

順位	名詞句	
	語句	頻度
1	自分	163
2	子ども	139
3	知識	112
4	教師	95
5	授業	92
6	生徒	63
7	教師像	59
8	教育	55
9	実際	52
10	経験	48
11	学習	41
12	機会	40
13	今	37
14	これから	35
15	講義	35
16	実習	33
17	活動	31
18	身	30
19	先生	25
20	たくさん	25

**表4 2年末の自己総合評価での頻出語句 (名詞句)**

位	名詞句	
	語句	頻度
1	自分	230
2	子ども	209
3	知識	173
4	教師	135
5	授業	133
6	身	66
7	教師像	57
8	実習	52
9	教育臨床演習	51
10	実際	50
11	教育	49
12	児童	43
13	学習	41
14	講義	39
15	これから	38
16	必要	38
17	今	37
18	目標	36
19	経験	36
20	生徒	36

の運用と工夫—自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して—. SYNAPSE, Vol.23, pp.12-15

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明

(2015) 教職 e ポートフォリオの活用による教育実習生の自己評価および相互コメントの効果. 日本教育工学会論文誌, 39(3) : 235-248

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明

(2016a) 教職 e ポートフォリオにおける相互コメントに見る教職志望学生の成長. 日本教育工学会研究報告集, JSET16-1, pp.533-538

谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明

(2016b) 教職 e ポートフォリオを活用した観点別自己評価に見る学生の成長過程分析の試み. 日本教育工学会研究報告集, JSET16-2, pp.55-60

**表5 3年末の自己総合評価での頻出語句 (名詞句)**

順位	名詞句	
	語句	頻度
1	子ども	307
2	授業	258
3	自分	252
4	教師	216
5	生徒	216
6	実習	139
7	教育実習	109
8	知識	102
9	実際	71
10	今	64
11	教師像	54
12	身	50
13	教育実習 I	48
14	今回	46
15	学び	39
16	大学	39
17	経験	37
18	これから	37
19	講義	35
20	先生	35

**表6 4年末の自己総合評価での頻出語句 (名詞句)**

順位	名詞句	
	語句	頻度
1	子ども	436
2	自分	303
3	教師	250
4	授業	153
5	経験	80
6	教育実習	75
7	知識	72
8	教師像	65
9	これから	59
10	実習	59
11	人	54
12	目標	51
13	教育実習 II	48
14	生徒	48
15	学び	48
16	姿	47
17	今	46
18	時間	37
19	力	36
20	教員採用試験	35
21	今後	35